

～ちょっと気になる感染症～

風しんについて

◆風しんとは

風しんは、風しんウイルスを原因とする急性の発疹性感染症です。風しんウイルスの感染経路は、飛沫感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播します。現在、風しんに有効な治療薬は無く、対症療法となります。

◆症状について

感染から14～21日の潜伏期間の後、発疹、発熱、リンパ節腫脹を特徴としますが、症状を示さない場合もあります。基本的には自然に回復しますが、脳炎や血小板減少性紫斑病等の合併症を起こすこともあります。

発疹の出る前後1週間は感染力があり、飛沫感染・接触感染で感染が広がります。

妊娠20週までの女性が風しんに感染すると、子どもが「先天性風しん症候群」にかかる可能性があります。妊娠中は予防接種が受けられないため、妊娠を希望されている方は早めに予防接種を受けましょう。また、妊婦の周りにいる人（配偶者、子、その他の同居家族等）は、風しんに感染しないよう予防接種を受けたり、マスク着用や手洗いを徹底するなどして、予防に努めてください。

◆予防について

風しんワクチンを接種することが有効な予防方法です。定期接種に位置づけられています。

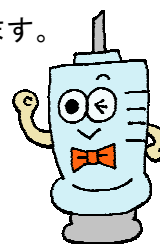
◆風しんのワクチン（麻しん風しん混合ワクチン）について

対象年齢 1期（1～2歳の誕生日の1日前まで）

2期（幼稚園年長相当年齢）

*対象年齢を過ぎると任意接種（有料）となるため、定期接種の年齢になったら速やかに接種を受けましょう。

*風しんの抗体を持たない男性も、妊娠中の女性（同居家族、配偶者）に感染を広げないために、ワクチン接種が望まれます。



◆学校保健安全法による取り扱い

風しんは学校において予防すべき感染症の第二種に規定されており、発疹が消失するまでは、出席停止とされています。

◆先天性風しん症候群とは

妊娠中に風しんに罹患することにより、風しんウイルスが胎児に感染して、出生児に先天性風しん症候群（CRS）と総称される障害を引き起こすことがあります。3大症状として先天性心疾患、難聴、白内障があります。妊娠中の感染時期によって重症度は異なります。特別な治療方法はないため、ワクチン接種により妊娠前に抗体を獲得しておくことが重要です。

